

器官解剖学

責任者・コーディネーター	解剖学講座人体発生学分野 人見 次郎 教授		
担当講座・学科(分野)	解剖学講座人体発生学分野、解剖学講座細胞生物学分野、医学教育学講座医学教育学分野		
担当教員	燕 軍 准教授、木村 英二 講師、齋野 朝幸 教授、中野 真人 助教、枘 一毅 助教、阿久津 仁美 助教、横山 拓矢 助教、佐藤 洋一 教授		
対象学年	2	区分・時間数	講義 75.0 時間 実習 34.5 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

解剖学 Anatomy は、生物を構成する物質（器官・組織・細胞・分子）のある時間軸におけるかたち（構造と構成）を明らかにし、その物質の働きのしくみ（動態・機能）を解析する。すなわち、形態を観察することにより、生物のダイナミクスを考察する学問分野である。解剖学の研究対象はあらゆる生物のあらゆる大きさの構造に及ぶが、器官解剖学では、講義と実習により人体の成り立ち（発生学）と、構成要素である器官とその組織（組織学）の正常構造の理解を深めていく。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

病気の成立機転を理解し、適切な治療方法を選択できるようになるためには、いろいろな生命現象がいつ、どこでおきているか理解していなければいけない。そのため、授業や演習を通じて、器官の特徴と形成過程を概説できるようになるとともに、組織の顕微鏡標本を観察し、スケッチすることで、器官の正常構成と細胞の正常な形態を、同定し、機能と関連付けて説明できるようになる。これにより、人体の基本構造を知ることとなる。

・到達目標（SBO）

器官解剖学の講義と実習で要求される到達目標は多岐にわたるので、具体的な行動目標は日程表に記す。

・ 講義日程

(矢) 西 102 1-B 講義室

(矢) 西 402 4-B 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/5	火	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 1 発生第 2 週から第 3 週まで；原腸形成 1. 二層性胚盤の構成を説明できる。 2. 内細胞塊の特徴を説明できる。 3. 栄養膜の特徴を説明できる。 4. 原腸形成の過程を説明できる。 5. 脊索の形成の過程を説明できる。 6. 体軸の決定の過程を説明できる。
4/5	火	4	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 2 発生第 3 週から第 8 週まで；胚子期 1. 3 胚葉それぞれの分化の方向性を説明できる。 2. 神経堤の形成と分化の方向性を説明できる。 3. 鰓弓と体節；胚子形成の繰り返し構造と相同を説明できる。
4/7	木	2	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	発生学 3 体腔 1. 胚内体腔の形成過程を説明できる。 2. 横隔膜の形成過程とその特徴を説明できる。 3. 胸腔の構造を説明できる。 4. 腹腔の構造を説明できる。
4/7	木	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	組織学 1 リンパ系器官 脾臓；血液の免疫
4/12	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 4 心臓脈管系 I 心臓の解剖 1. 心臓の内腔の構造の特徴を説明できる。 2. 心臓の外表面の構造の特徴を説明できる。 3. 心臓の血管の特徴を説明できる。

					4. 心臓の神経を説明できる。
4/12	火	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 5 心臓脈管系 II 心臓の発生 1. 心筒の形成過程を説明できる。 2. 心臓ループの形成過程を説明できる。 3. 静脈洞の変遷を説明できる。 4. 心臓中隔の形成過程を説明できる。
4/12	火	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	組織学 2 心臓 1. 刺激伝導系 2. 心臓の血管系
4/14	木	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	発生学 6 頭頸部 I 鰓弓と鰓弓神経 1. 頭頸部と体幹部の違いについて述べるができる。 2. 鰓弓の進化的起源について述べるができる。 3. 鰓弓を構成する構造物と細胞の由来を列挙することができる。 4. 鰓弓に由来する器官とその起源を述べるができる。 5. 鰓弓由来の器官と支配神経の関係について述べるができる。 6. 鰓弓の先天性異常について述べるができる。
4/14	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 3 消化器系 I 歯
4/19	火	1	人体発生学分野	木村 英二 講師	発生学 7 心臓脈管系 III 動脈の発生 1. 体循環・肺循環と胎児循環の違いを説明できる。 2. 大動脈弓の枝の起始・走行・分布と分岐形態の発生学的理由を説明できる。 3. 腹大動脈の臓側枝の起始・走行・分布と分岐形態の発生学的理由を説明できる。 4. 腹大動脈の外側枝の起始・走行・分布と分岐形態の発生学的理由を説明できる。 5. 頭頸部と四肢の主な動脈を図示し、

					分布域を概説できる。
4/19	火	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	発生学 8 頭頸部Ⅱ 顔面と口蓋 1. 頭蓋、顔面、舌の形態形成について述べるができる。 2. 脳下垂体、副甲状腺、甲状腺の発生過程について述べるができる。 3. 脳下垂体と甲状腺の機能を列挙することができる。
4/19	火	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 4 消化器系Ⅱ 口腔と咽頭 1. 口唇 2. 舌 3. 唾液腺 4. 咽頭 5. 口腔の支配神経
4/21	木	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 9 消化器系Ⅰ 腸間膜と前腸
4/21	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 5 消化器系Ⅲ 上部消化管 1. 食道・胃の構造的な特徴を列挙できる。 2. 噴門腺と胃底腺，幽門腺の特徴を図解できる。 3. 胃の上皮細胞の種類と働きについて述べるができる。 4. 食道・胃の神経支配について述べるができる。 5. 食道・胃の動脈支配について説明できる。 6. 消化管神経叢を同定できる。
4/26	火	1	人体発生学分野	木村 英二 講師	発生学 10 心臓脈管系Ⅳ 静脈の発生 1. 主な静脈を図示し、走行経路を概説できる。 2. 下大静脈とその枝の分岐形態と発生的理由を説明できる。 3. 肝門静脈とその枝の分岐形態と発生的理由を説明できる。 4. 胸管を経由するリンパの流れを説明できる。
4/26	火	2	人体発生学分野	木村 英二 講師	発生学 11

					消化器系Ⅱ 中腸・後腸
4/26	火	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 6 消化器系Ⅳ 十二指腸・膵 1. 十二指腸の構造的な特徴を列挙できる。 2. 十二指腸の動脈支配について説明できる。 3. 膵臓（外分泌腺）の構造 4. 膵臓の血管系
4/28	木	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	発生学 12 神経系Ⅰ 脊椎と脳
4/28	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 7 消化器系Ⅴ（下部消化管；小腸と大腸） 1. 小腸の上皮細胞の種類と働きについて述べるができる。 2. GALTが何か、説明できる。 3. パネト細胞の存在部位と機能について説明できる。 4. 消化管神経叢を同定できる。 5. 結腸と小腸の構造的並びに機能的相違を述べるができる。 6. パイエル板の存在部位について説明できる。 7. 結腸の構造の特徴を小腸と比較して述べるができる。 8. 肛門部の解剖を説明できる。
5/10	火	1	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	発生学 13 神経系Ⅱ 脳神経系
5/10	火	2	人体発生学分野	木村 英二 講師	発生学 14 消化器系Ⅲ 肝胆膵 1. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、発生過程を説明できる。
5/10	火	3	人体発生学分野	木村 英二 講師	組織学 8 消化器系Ⅵ 肝・胆 1. 肝臓の構造 2. 肝臓の血管系 3. 胆道系
5/12	木	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 15 内分泌系
5/12	木	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	組織学 9 内分泌系Ⅰ（消化管内分泌系）

5/17	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	発生学 16 骨格系・筋系
5/17	火	2	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	発生学 17 神経系Ⅲ 自律神経系
5/17	火	3	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	組織学 10 呼吸器系Ⅰ 鼻腔・喉頭・気管 1. 鼻腔と副鼻腔 2. 咽頭・喉頭 3. 気管と気管支
5/19	木	2	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	発生学 18 呼吸器系 1. 気道の構造、肺葉、肺区域と肺門の構造を説明できる。 2. 肺の機能血管（肺循環）と栄養血管の特徴を説明できる。 3. 縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。 4. 呼吸器の発生が説明できる。
5/19	木	3	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	組織学 11 呼吸器系Ⅱ 肺 1. 気管支の構造 2. 肺胞の構造 3. 肺の血管系 4. 肺のリンパ性組織
5/24	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	組織学 12 内分泌系Ⅱ 視床下部・下垂体系 1. ホルモンについてその特徴を述べることができる。 2. 内分泌器官に特徴的な毛細血管の形態について説明できる。 3. 腺性下垂体と神経性下垂体を区分し、それぞれの構成細胞の機能と形態学的特徴を説明できる。 4. 下垂体門脈系を説明できる。 5. 下垂体の発生過程を説明できる。 6. 神経分泌を説明できる。 7. 腺性下垂体と神経性下垂体からそれぞれ分泌されるホルモンについてその機能を説明できる。
5/24	火	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	組織学 13 内分泌系Ⅲ 副腎と甲状腺 1. 副腎の構造と血管系 2. 甲状腺の構造と血管系 3. 上皮小体の構造

5/26	木	2	人体発生学分野	木村 英二 講師	<p>発生学 19 尿生殖器系 I 泌尿器系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前腎・中腎・後腎の発生過程とそれぞれの機能を説明する事ができる。 2. 下部尿路（膀胱、前立腺、尿道）の発生、構造、機能を説明する事ができる。 3. 膀胱での蓄尿、排尿機構を説明できる。
5/26	木	3	人体発生学分野	木村 英二 講師	<p>組織学 14 泌尿器系 腎・膀胱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎の構造 2. 腎の血管系 3. 尿路と膀胱の構造
5/31	火	1	医学教育学分野	佐藤 洋一 教授	<p>発生学 20 神経系 III 自律神経系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交感神経系 2. 副腎 3. 副交感神経系
5/31	火	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>発生学 21 尿生殖器系 II 生殖器系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性腺の発生 2. 生殖管の分化・変遷 3. 外生殖器の形成 4. 精巣と卵巣の下降
5/31	火	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>組織学 15 男の生殖器 I 精巣</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精巣の微細構造を理解し、曲精細管とその機能単位である精上皮に見られる細胞群の変化の過程（精子発生と精子形成）について説明できる。 2. 血液 - 精巣関門を組織学的に理解できる。 3. 男性ホルモンの分泌とその産生制御機構に関わる細胞の特性を説明できる。 4. 精巣上体の構造と機能について説明できる。
6/2	木	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>発生学 22</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発生第 1 週；排卵から着床まで 2. 胎盤形成

6/2	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>組織学 16 男の生殖器Ⅱ 精巣附属器・精嚢・前立腺の構造、陰茎の構造</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精路を構成する器官（精巣上体、精管）及び附属腺（前立腺、精嚢）の構造と機能について説明できる。 2. 陰茎の組織学的特徴を説明できる。 3. 勃起のメカニズムについて説明できる。
6/7	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>発生学 23（演習） 発生異常Ⅰ 心臓</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓異常 2. 動脈異常 3. 静脈異常
6/7	火	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>発生学 24（演習） 発生異常Ⅱ 生殖器系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性分化の異常 2. 子宮と膣の異常 3. 外生殖器の異常 4. 精巣と卵巣の下降の異常
6/7	火	3	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	<p>組織学 17 女の生殖器Ⅰ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卵巣の構造 2. 子宮の構造 3. 卵巣と子宮内膜の周期的変化
6/9	木	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>発生学 25（演習） 発生異常Ⅲ 泌尿器系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓の異常 2. 尿路の異常
6/9	木	3	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	<p>組織学 18 女の生殖器Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子宮と胎盤
6/14	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>発生学 26（演習） 発生異常Ⅳ 消化器系と呼吸器系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食道異常 2. 胃の異常 3. 胆肝膵の異常 4. 腸間膜の異常 5. 後腸の異常
6/14	火	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>発生学 27 感覚器系Ⅰ 視覚器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚器の発生、構造、機能を説明

					<p>する事ができる。</p> <p>2. 眼球運動を説明できる。</p> <p>3. 眼球の知覚を説明できる。</p>
6/14	火	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 19</p> <p>感覚器Ⅰ 視覚器</p> <p>1. 視覚器の構造と構成要素を列挙し、それぞれの形態的特徴と働きを説明できる。</p>
6/16	木	1	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>発生学 28 (演習)</p> <p>発生異常Ⅴ 頭頸部</p> <p>1. 顔面、舌、脳下垂体や甲状腺等の先天性異常について述べる事ができる。</p>
6/16	木	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>発生学 29</p> <p>感覚器Ⅱ 平衡感覚器</p> <p>1. 平衡器の発生、構造、機能を説明する事ができる。</p> <p>2. 鼓室の構造を説明できる。</p>
6/16	木	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 20</p> <p>感覚器Ⅱ 聴覚器</p> <p>1. 平衡聴覚器の構造と構成要素を列挙し、それぞれの形態学的特徴と働きを説明できる。</p>
6/21	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 21</p> <p>感覚器Ⅲ 皮膚</p> <p>1. 皮膚の構成組織の特徴と働きを説明することができる。</p> <p>2. 感覚細胞と神経細胞の形態的特徴の相同と違いを説明し、感覚器を定義できる。</p> <p>3. 皮膚の感覚器を列挙し、それぞれの形態的特徴と働きを説明できる。</p>

【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/7	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	<p>組織学実習 1 リンパ性器官</p> <p>1. 脾臓の構造を観察し、組織の構成と構成細胞の特徴や分布を図解できるようにスケッチする。</p>

4/12	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 2 心臓の解剖学 1. ブタの心臓の外表と内腔の観察とスケッチ。血液の流れを理解する。2. 心臓の刺激伝導系の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。
4/14	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 3 消化器系 I 1. 歯の組織の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。
4/19	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 4 消化器系 II 1. 口唇 2. 舌 3. 唾液腺 4. 咽頭 それぞれの組織の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。
4/21	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 5 消化器系 III (上部消化管) 1. 食道 2. 胃 それぞれの組織の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。
4/26	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 6 消化器系 IV 1. 十二指腸 2. 膵臓 (外分泌腺) それぞれの器官の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
4/28	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 7 消化器系 V (下部消化管) 1. 小腸 2. 大腸 3. 直腸 それぞれの器官の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。

5/10	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 8 消化器系Ⅵ (肝・胆) 1. 肝臓 2. 胆嚢 それぞれの器官の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
5/12	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 9 消化器系Ⅶ (消化管内分泌系)
5/17	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 10 呼吸器系Ⅰ 1. 鼻腔と副鼻腔 2. 咽頭・喉頭 3. 気管と気管支 それぞれの組織の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。
5/19	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 11 呼吸器系Ⅱ (肺) 1. 肺胞の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
5/24	火	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 12 内分泌系Ⅰ (視床下部・下垂体系) 1. 下垂体前葉 2. 下垂体後葉 3. 松果体 それぞれの器官の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
5/24	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 13 内分泌系Ⅱ (副腎と甲状腺) 1. 副腎 2. 甲状腺 3. 上皮小体 それぞれの構造の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
5/26	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授	組織学実習 14 泌尿器系 (腎・膀胱)

			人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	1. 腎 2. 尿路と膀胱 それぞれの構造の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
5/31	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 15 男の生殖器 I 1. 精巣の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
6/2	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 16 男の生殖器 II 1. 精路 2. 陰茎 それぞれの構造の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
6/7	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 17 女の生殖器 I 1. 卵巣の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
6/9	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 18 女の生殖器 II 1. 子宮 2. 胎盤 それぞれの構造の構成細胞を観察・同定し、図解できるようにスケッチする。
6/14	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 19 視覚器 1. 視覚器を構成する組織とその構成要素の観察・同定・スケッチ
6/16	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	組織学実習 20 平衡聴覚器 1. 平衡聴覚器を構成する組織とその構成要素の観察・同定・スケッチ
6/21	火	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 講師 阿久津 仁美 助教	組織学実習 21 皮膚 1. 皮膚を構成する組織とその構成要素の観察・同定・スケッチ

			細胞生物学分野	横山 拓矢 助教	
6/23	木	1	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 燕 軍 准教授 木村 英二 講師 中野 真人 助教 柘 一毅 助教 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	まとめ；組織学プレテスト
6/23	木	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 燕 軍 准教授 木村 英二 講師 中野 真人 助教 柘 一毅 助教 阿久津 仁美 助教 横山 拓矢 助教	まとめ；発生学プレテスト

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準組織学 各論 4版	藤田恒夫、藤田尚男 著	医学書院	2010
教	人体解剖学：Human Anatomy 改訂42版	藤田恒太郎 著	南江堂	2003
教	ラングマン人体発生学 第11版	安田峯生、山田重人 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016
参	骨学実習の手引き 4版	寺田春水、藤田恒夫 著	南山堂	1992
教	入門組織学 改訂第2版	牛木辰男	南江堂	2013
教	標準組織学 総論 5版	藤田恒夫、藤田尚男 著	医学書院	2015
推	カラーアトラス 組織・細胞学	岩永敏彦 著	医歯薬出版	1990
推	解剖学総論 / 運動器系 2版 (プロメテウス解剖学アトラス)	Michael Schünke ほか著、坂井建雄、松村譲児 監訳	医学書院	2011

・成績評価方法

試験の成績が80%（筆記および口頭による試験）、実習の評価（個人が提出した実習記録（スケッチ）を点数化）が20%の割合で評価する。尚、試験は授業で示されたSBOから出題する。実習の欠席は重く判定する。欠席する場合、きちんとした理由がない場合認めないので理由書を提出すること。なお、講義・実習への出席が規定の出席数に達しない場合は原則として、試験の受験資格は無い。

・特記事項・その他

1年次に履修した細胞生物学・基礎組織学・骨学では、常に形態・機能・物質の3要素を一体化して勉強したことからわかるように、生命科学においては多方面の分野の統合化が求められている。人体のどこにどのような器官（特定の機能を果たす構造単位）が含まれるか、またそれはどのような機能を果たしているかを学ぶのが系統解剖学であり、器官の基本的構造である細胞と間質が寄り集まってできている組織の構造と機能を学ぶのが組織学である。また、生命体の構造的成り立ちを理解するのが、発生学である。器官解剖学では、系統解剖学を基本に、発生学と組織学を器官・系ごとに系統的に講義と実習をおこなう。2年次の後期では、解剖学的位置関係の把握し、臨床医学の実臨床を可能にするため、臨床解剖学へ進むが、器官解剖学の知識が不可欠である。また病気の発生機転を学ぶ病理学では、正常組織を理解していることが前提となっていることから、先行して組織学実習をおこなう。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	PC 画面投影装置	2	講義
実習	ノートパソコン	2	講義
実習	骨標本	130	実習
実習	Zeiss 顕微鏡	130	実習